

講義年月日 2006年5月15日

講演者 加藤 好郎氏 (慶應義塾大学国際センター事務長)

テーマ アウトソーシング時代における大学図書館の戦略

講義内容

1. 大学経営の危機

- ・ 2007年大学全入時代 29%の大学で定員割れ
- ・ 大学の収入源の30%超を経営に費やす大学出現。
ex. 萩国際大学：民事再生法を初めて適用される。
- ・ 法科大学院の4校に3校が定員割れ。
- ・ 修士課程の定員割れ。
- ・ アメリカMBAの志願者減少。

図書館も経営困難な時代となる。

2. 慶應義塾図書館の歴史

- ・ 1858年 福澤塾として始まる。
 - ・ 1858年 慶應義塾と命名。
 - ・ 1871年 三田に移転：元島原藩の月波楼に辞書を置き、学生の学びの場となる。
 - ・ 1887年 煉瓦講堂「書籍館」
 - ・ 1890年 大学部発足
 - ・ 1906年 「図書館」となる。
 - ・ 1912年 旧館開館
 - ・ 1945年 敗戦：大きな被害を受けたが、図書は疎開していて無事。
各キャンパス地を図書館員が巡回し教科書を学生に届ける。
- 図書館機能継続
- ・ 1970年 研究・教育情報センター：4地区を統合した組織とする。
 - ・ 1982年 新館開館：貴重書以外開架式、学部図書の目録整備
 - ・ 1990年 SFCメディアセンターオープン：コンセプト「ペーパーレス」、蔵書約2万冊。
 - ・ 1993年 他4地区もメディアセンター設立

図書館と計算センターを安易に組織統合した結果、現場が混乱する。

3. 慶應義塾図書館のリエンジニアリング

- ・ 背景：7万冊の整理滞貨 図書費は減らなかったが、人が減ったため
- ・ 目的：パブリックサービスを充実させる
- ・ 手法：目録作業をトヨタのカンバン方式 (= 流れ作業) としアウトソーシングへ
専任カタログ 20人 5人
レファレンス担当 4人 6人
相互貸借 0人 1人
マルチメディアサービス 0人 2人
書庫管理担当設置

1998年、集中処理機構 (メディア本部) 設置し、医学部以外の4地区の発注から配送までの業務を統合する。

- ・ 結果：1年半で7万冊の整理滞貨資料処理
専任職員10人を減らし、アウトソーシングに。

カウンターサービス向上、貸出冊数増加、生産工程の確保、督促業務の増加、相互貸借の充実、リザーブブック、修士論文の複写許諾、館内巡回、マルチメディアサービス、マイクロ資料のサービスと管理、コピー機の管理等

・各種研修

UCSDに6名派遣・TORONTOに3名派遣等、大学院に派遣、アーキビストの養成
書誌学にアプローチできる図書館員養成、デジタルライブラリアン養成
情報リテラシー教育、インターンシップ制度の導入

・派遣5年+嘱託3年=専門職の予備軍

6. 専門職としての9機能

Director = 事務長 Bibliographer Archivist System Librarian
Electronic Librarian = 電子媒体選定能力 Digital Librarian = 電子媒体作成能力
Cataloger Reference Librarian Serials Librarian

7. 専門職として必要な5主題

・ Science Medicine Law Business Humanities

図書館長+5主題×8機能(Directorを除く)の専門職がいれば図書館運営が可能

8. リスクマネジメントの必要性

- ・収書担当 取引書店の信用調査(書店の倒産などに対応)
- ・システム担当 システムセキュリティー、緊急時対応等
- ・閲覧担当 利用者対応マニュアル作成(問題利用者などに対応)

9. 図書館経営の基本原則

図書館サービスは、利用者を優先せよ。

図書館は、サービスの先取りをせよ。

利用者が必要とするサービスおよび情報を提供せよ。

利用者が必要とする各種媒体資料を用意せよ。

図書館経営には、サービスの提供に課金することも考慮せよ。

図書館経営には、費用対効果と費用対便益を意識せよ。

資料の価値は、その購入額で判断するな。

事業計画の進捗状況を常に点検せよ。

改革には、そのタイミングが重要である。

図書館活動の拡充は、その競争の中での協力から生まれる。

図書館経営の向上には、継続的なマーケティングが不可欠である。

新しいサービスの構築には、常にサービスのライフサイクルを意識せよ。

図書館経営は、利用者、書店、図書館員との有機的な活動により成り立ち、お互いに成長していく。

健全な図書館経営は、常に、図書館は民主主義の基本であるという概念が必要だ。

図書館学は、実学であり、図書館経営は、利用者のために存在する。

10. おわりに

・ビスマルク「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」

「経験」に学ぶだけでなく、「歴史」に学ぶことが大切

・ダーウィン「最も強いものが、生き残るわけでもない。最も賢いものが、生き残るわけでもない。唯一、生き残れるのは、変化できるものである」

図書館も変化していかなければ、生き残ることはできない。